

# 1. 外部評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970100174
法人名	株式会社シテイ・プランナー
事業所名	フレンドニケ辻
所在地	奈良県奈良市尼辻西町8-10 (電話)0742-51-7700
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良県奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成19年9月25日

## 【情報提供票より】(H19年 9月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 2人, 非常勤 10 人, 常勤換算	5.5 人

### (2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ (1日2回) 200 円
または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 67 歳	最高 94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	棕棒医院・医療法人 田北病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古い町並みの一角で、最寄の駅から歩いて1~2分の所にあり、近くには古墳もあり美しい景色を見ながらの散歩ができる。近くにはスーパー、飲食店もあり便利である。グループホームは、古い日本家屋を利用しており、草花のある中庭を囲むようにして居室があり、落ち着いて生活できるようになっている。食事手作りでも美味しく、趣味の書道や絵など生活の中に活かし、家庭的でぬくもりのあるホーム作りをしている。職員は段階的な研修を行い、地域と連携しながらホームの質の向上につとめている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回での改善課題は特に挙げられてなく、日常的にグループホームの質の向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員間で話し合い自己評価をおこない、ケース会議で、具体的な事例検討に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では行政、地域代表、家族の参加が難しく、年2回の開催になっている。家族会や行事の機会に話し合い、行政への報告をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「フレンドだより」で入居者の様子を報告している。行事や家族の訪問時に意見や希望を聞いて介護計画を立て、家族に報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の役員会議に参加し、夏祭りや文化祭など地域との交流ができています。散歩時の挨拶やホームへの地域の方の訪問もあり日常的な付き合いもできています。

## 2. 外部評価報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしい安心できる生活をお手伝いします。」 「利用者の尊厳をまもります。」 簡潔明瞭で解り易く、地域で安心して生活できるよう、支援していくことを謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域との連携や、一人ひとりの状態に合った介護をされており、ミーティングで話し合い、理念を共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ゴミ当番や外出時に挨拶を交わしたり、野菜を持ってきてくれたり等、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の文章を読むことで、日々の介護を評価しケース会議で事例検討し、ケアの改善に努めている。評価のファイルが、玄関に設置され、誰でも閲覧できるよう開示されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は季節の行事のおり2回開催された。	○	推進会議の参加者が家族1-2名、自治会1名と少ない。今後、家族、行政等へ趣旨を説明し参加への工夫をされては、如何でしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、グループホームの現状を報告し指導も受けている。中学校の体験学習もおこなっており、連絡を密にとりサービスの質の向上につとめている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「フレンドだより」を発行し、行事や日々の暮らしの様子をお知らせしている。家族の訪問時に声かけし、心身の状態を伝えたり、家族の希望を聞いて、ケアに活かしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に声かけし、意見を聞くようにしている。アンケート調査も行い、意見や不満があれば、カンファレンスで話しあっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限にしており、退職者もなく利用者へのダメージを防ぐ配慮をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中段階研修、リーダー研修など段階別に行っている。又、認知症介護実践研修、管理者研修など計画的に参加しており、研修内容は職員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム運営協議会に参加し情報交換、グループホームの相互訪問、勉強会などの活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族と共に相談し、一週間位の体験入所をしてもらい、場の雰囲気慣れる様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、母親のような年齢の方である利用者を支える気持ちで介護している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの、レクリエーションや食べたい物の希望を聞きながら進めている。又意思表示できない方は表情や日ごろの様子から汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の日ごろの様子や家族の意見を、チーム会議で話し合い、利用者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3～6ヶ月ごとに行い、状態の変化に応じた計画作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションを立ち上げ連携している。ターミナルケアについては、家族の要望があれば応じられるよう検討している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神科、内科等かかりつけ医と連携し、家族と相談しながら受診している。夜間の医療も受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常から訪問看護の支援をうけており、重度化した場合や終末期についても対応できる様検討している。現在は家族からの具体的な相談がない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの状態に合った声かけをし、優しく落ち着いた対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、食事やレクリエーションなど希望を聞きながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者の好みや希望を聞きながら、職員と準備や後かたづけをしている。又全員が揃ってから職員も一緒に食事を楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日で順番は、本人の意向を聞きながら介護者が付き添い、くつろいだ雰囲気支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の手伝い食事の後かたづけなど職員と共に行っている。書道、絵具などが用意されており、趣味を生かした支援もできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	小人数での散歩や、スーパーへの買い物に毎日かける様にしている。又月一回の食事会、運動会、自治会の行事に参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間や日中玄関には、鍵をかけず生活の中での様子に気をつけ見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は、年2回行い、地震についても職員間で話し合っている。また地域の協力も得られるよう働きかけており、避難場所も確保し、対応できる様にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリー栄養のバランスは把握されており、体調の悪い方は献立変更している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本風家屋で居室は中庭に面しており、草花も植えられており、明るく居心地よく過ごせるようになっている。居間にはソファ、椅子、テレビがあり、秋の草花も生けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはダンスやテーブルなど使い慣れたものが置かれている。入居者の趣味の絵や小物も飾られており、居心地良く過ごせるようになっている。		